

EBC(Evidence-based Control)研究会ワークショップ 2012のご案内

日時：2012年9月11日(火) 12:30～17:30, 受付は12:00より。

場所：J A全農 営農・技術センター 大ホール(神奈川県平塚市東八幡4-18-1)

<http://www.zenoh.or.jp/eigi/access.html> を参照下さい。神奈中バス利用：J R平塚駅北口バス乗り場「工業団地」行き乗車「全農前」下車：約15分・200円。タクシー利用：約10分・1,500円位。

参加費：会場費等として、2,000円(ただし、学生は1,000円)を受付時に徴収させていただきます。

参加申し込み：下記事務局に8月24日(金)までに電子メールにてお願いします。申し込みをされた方には講演要旨をダウンロード(PDF)できる方法を電子メールでご案内しますので、印刷して当日ご持参ください。なお、当日も会場にて受け付けを行います(12:00～)。

懇親会(会費3,000円程度)：営農・技術センターの食堂で18:00より予定しております。参加をご希望の方は申し込み時にお申し出下さい(定員になり次第締め切らせていただきます)。なお、会費は懇親会場で徴収させていただきます。

プログラム

12:30 開会

12:35～13:20 On-farm researchの意義とその手法について

川口 章(岡山県農林水産総合センター農業研究所)

“On-farm research”とは農業生産者の圃場で行う研究を指し、農学における応用研究において主要な研究手法となっていますが、効率的な実施には最適な研究デザインを選択する必要があります。本演題では、On-farm researchの方法論について、コホート研究やメタアナリシスの事例を用いて紹介します。

13:20～14:20 メタアナリシスと箱ひげ図の解説と使用方法について(実習)

岩館 康哉(岩手県農業研究センター)

昨年の本研究会での発表「薬剤防除試験成績の現場指導への活用事例」の解析に用いた「メタアナリシス」、「箱ひげ図」について、どのように作成するのかというお問い合わせを多数いただきました。そこで、試験成績の取得から統計ソフト(Excelなど)を用いた解析作業および結果の出力についての作業工程を、実際にパソコンを使って紹介します。

—休憩—

14:35～15:25 農薬混用時の防除効果の変動は？—カンキツおよびナシでの事例をもとにした見解—

井手 洋一(佐賀県農業技術防除センター)

田代 暢哉(佐賀県上場営農センター)

各種殺菌剤と殺虫剤との混用散布は農業現場では日常的に行われていますが、効果の変動に関するエビデンスの集積は少ないのが現状です。ここでは、より効果的な病害虫防除対策を実施するために、混用による効果の向上および低下について、これまでに得られた試験結果を解析し、カンキツおよびナシの事例を通して具体的に紹介します。

—休憩—

15:40～17:30 現場で役立つ防除技術とその実践方法について(実演)

川幡 寛(J A全農 営農・技術センター農薬研究室)

宗 和弘(J A全農 営農販売企画部)

近年、様々な病害虫防除技術が開発されており、これらを使いこなすためには、それぞれの特性を十分に把握しておく必要があります。そこで、実演を交えながら、現在普及している防除技術の特性とその効果的な実践方法について紹介します。

17:30 閉会

問い合わせ先：研究会事務局 東京農業大学農学部植物病理研究室 根岸寛光(e-mail:negishi@nodai.ac.jp)

翌9月12日(水)には、日本植物防疫協会主催のシンポジウム「薬剤抵抗性対策の課題と対応」が日本教育会館「一ツ橋ホール」(東京都千代田区一ツ橋2-6-2)で開催されます。